

岡崎の春の楽しみは
水のぬるんだ乙川で
ちょっと小粋に舟遊び

… 岡崎城下舟遊び …



船から見る桜の花はまた格別。昨年はあまりの人気で乗船困難だった屋形船。今年は「竹千代丸」に加え「元康丸」が就航し、乗船しやすくなりました。殿橋下流から吹矢橋を往復し、乗船時間は約 45 分。前売券の販売は 3 月 1 日（土）からチケットピアで。当日券は乗船場受付で購入できます。

運航期間；3 月 25 日（火）～4 月 10 日（木）
17 日間

乗船場所；殿橋下流乗船場

乗船料金；前売 800 円（お茶、お菓子付）
当日 1000 円（お茶、お菓子付）

乗船定員；20 名／1 便

運航時間；10:30 11:00 11:30 12:00
12:30 14:00 14:30 15:00
15:30 17:00 17:30 18:00
18:30 19:00 19:30 20:00

早耳情報

萬徳寺寄席で大笑い！！

3月23日（日）午後2時開演

入場無料！！

NHK 朝の連続テレビ小説「ちりとてちん」で人気沸騰した上方落語。岡崎で上方落語が楽しめるのが「萬徳寺寄席」です。主催は、東海三県にすむ社会人落語のチャンピオンたちが江戸と上方の落語の技を競う「楽語の会」。出演は竜宮亭無眠さん、浪漫亭砂九さん、お好味家喜楽さん、川の家河太朗さん。回を重ねて第 24 回となるこの寄席では、今回もまたプロが裸足で逃げ出す話芸が楽しめます。会場の萬徳寺は裏面の《地図 A》でお確かめの上、早いお運びを。たまには大笑いして下さい。



竜宮亭無眠さん

■発行

電車どおり 5 商店街

○能見北発展会

○本町通三丁目商店街振興組合

○岡崎銀座商店街振興組合

○殿橋通発展会

○岡崎明大寺商店街振興組合

■協力

岡崎商工会議所

岡崎市観光協会

■編集協力

おかざき塾

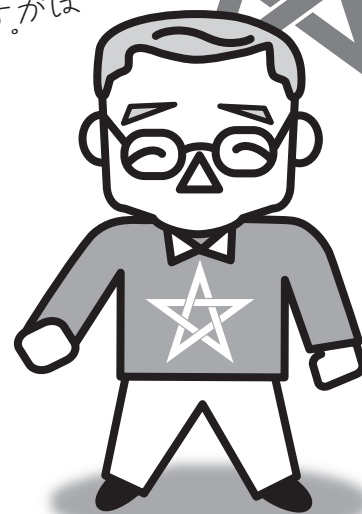
三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」



2008 年（平成 20 年）3 月・4 月（第 13 号）

電車どおりの住民がご近所のネットワークを活かしまち歩きを楽しむオススメポイントをご紹介します。

わ自お晴
い然参明
てにり神
き元す社
ま気れに
すがば



江戸時代の 岡崎湊

満性寺土場、桜の馬場土場、御用土場が大賑わい



満性寺土場あたり

江戸時代の物資の輸送は主に船が担っていました。全長が 18m から 23m ほどの川船が矢作川や乙川を行き交い、河口で大型の海船とバトンタッチしました。土場とは荷物の積み降ろしをする川湊（かわみなと）のことです。船の中央にはめ込み式の帆柱があり、順風の時は河口から 1 日で到着しましたが、普通は 3 日を要しました。下りは流れに身を任せ、半日で仕事が済んだようです。御用土場では年貢米を扱い、満性寺土場と桜の馬場土場では、木綿、呉服、小間物、塩、薬種、酒、金物、石製品、干鰯などが取り扱われました。江戸の町で三河木綿が人気商品となったのも、この川船のルートがあったからこそです。船の操作は夫婦で行われることが多く、仕事が終わった後の楽しみは、伝馬町や材木町での買物や飲食、銭湯で大きな湯舟につかること、六地藏町にあった宝来座での芝居見物だったといえます。寝泊まりは船の後部にある苫（とま）と呼ばれた 4 畳ほどの一間で、ここが生活の場でした。現代では想像もつかない景色が乙川にあったのです。